

行政視察及び研修等報告書

平成28年10月24日

笠岡市議会議長 殿

(出張者) 議員 齋藤一信



議員 大本邦光



下記のとおり研修等を実施したのでその結果を報告します。
記

- 【1】名古屋市 災害時の受援計画・オープンスペース利用計画について
平成28年10月18日(火) 10時～12時
- 【2】平成28年度 第11回 全国市議会議長会研究フォーラム
平成28年10月19日(水)～20日(木)

住 所	〒460-8508 愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番1号
電 話	052-961-1111
案 件	災害時の受援計画・オープンスペース利用計画について
期 日	平成28年10月18日(火) 10時00分から11時40分
応 対 者	危機管理局 主事 市原 諒一氏 主事 大月 秀朗氏
状 況	別紙写真のとおり
訪問施設	市役所 東棟 4階

【災害時の受援計画・オープンスペース利用計画について】

1) 消防局(消防受付センター見学)

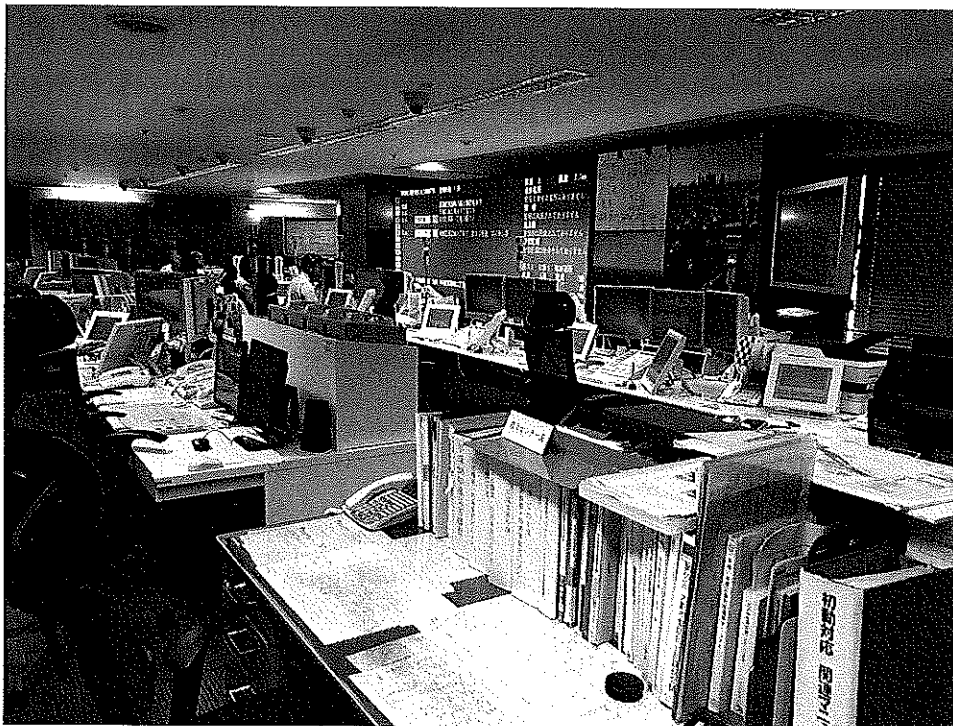
内容：市内発災対応のシミュレーションを実演していただく。



対応の特徴①：発災場所最寄りの消防車への迅速な指令のシステム化が図られており、指令時にはどの車が現場にてどの役目を担うのかシステムにて指示が出されており、発災現場での迅速な対応が可能となっている。

対応の特徴②：市長室と近くにそのセンターが位置しており、災害対応の際、市長部局との連携がスムーズにできるようにされていた。

⇒笠岡市長室と消防署の立地の課題を検証すべきと考えます。



同センターの特徴①：ライブカメラの設置を市内にしており、市内の現状が

センターにしながら、可視化できている。⇒笠岡市にも島嶼部を始め沿岸部及び、市内重要箇所にはライブカメラの設置を推進すべきと考える。

2) オープンスペース利用計画・受援計画策定について

この度は、名古屋市災害危機管理局より災害時対応としてのオープンスペース利用計画及び、受援計画策定についてレクチャーを受けさせていただきました。以下、質問概要をまとめさせていただきます。レクチャー内容は添付資料にて。



概 要

質問①：熊本地震での特徴的な避難形態としてのテント・自動車内での避難生活者対応としてのオープンスペースの考え方について教えてください。

回答①：今後、国のガイドラインにこの2点の対応は含まれてくるのではないかと考えている。市としても予め、広い駐車場等を選定しておき、災害時、市民にテント及び、自動車での避難生活を対応としたスペースの確保を検討していく必要があると考えている。そうすることによって、市民の安全確保の情報が集約しやすくなると考えている。

質問②：オープンスペースの選定にあたって市民はどのように関与しているのか。

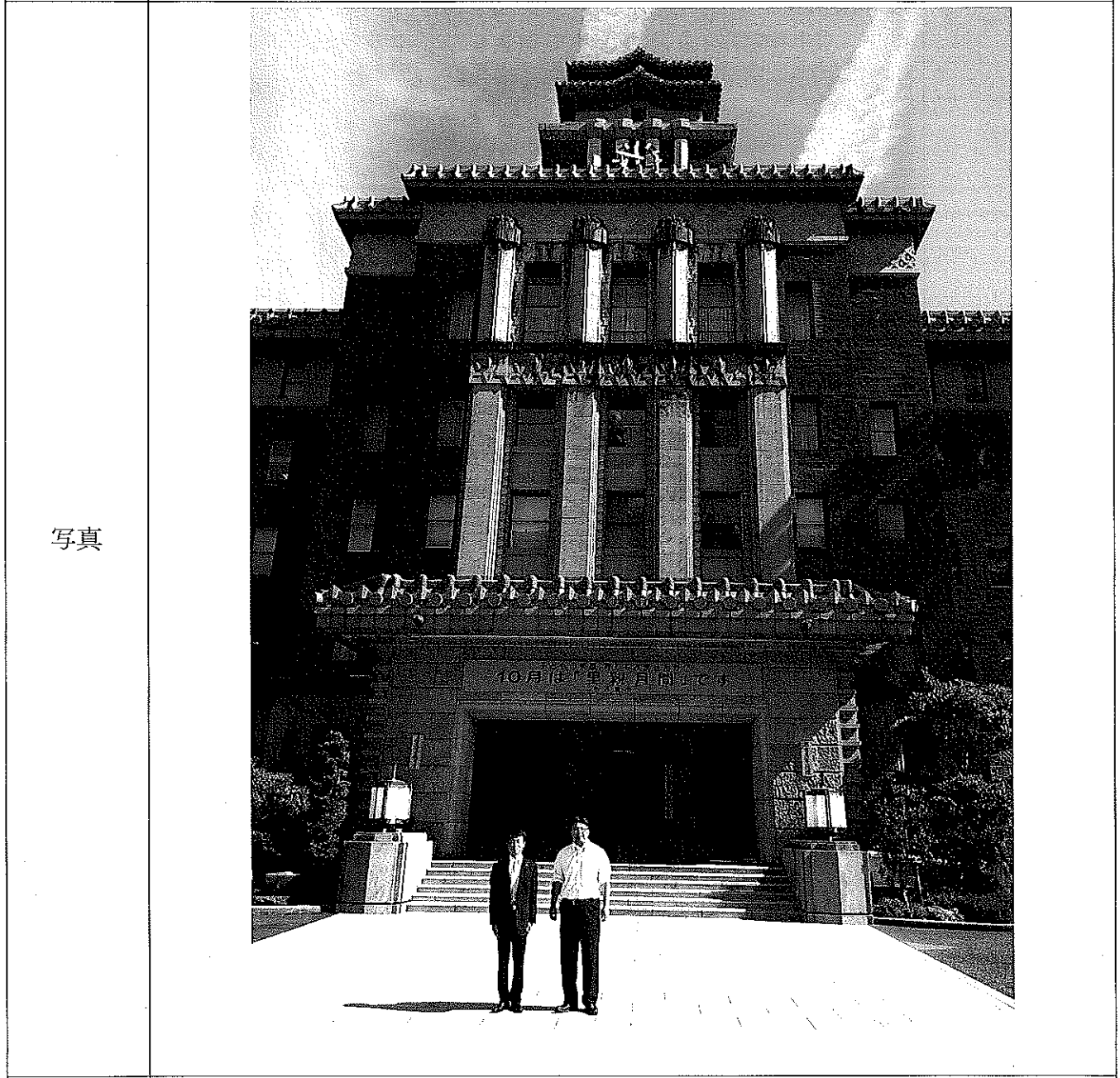
回答②：あらかじめ市民にこの場所が災害時、オープンスペースとして使われると知らせると調整が困難になりうるので選定には市民は含めていない。発災後での対応でも市民の理解は得られるものと考えている。

質問③：オープンスペース候補地カルテの作成方法を教えてください。

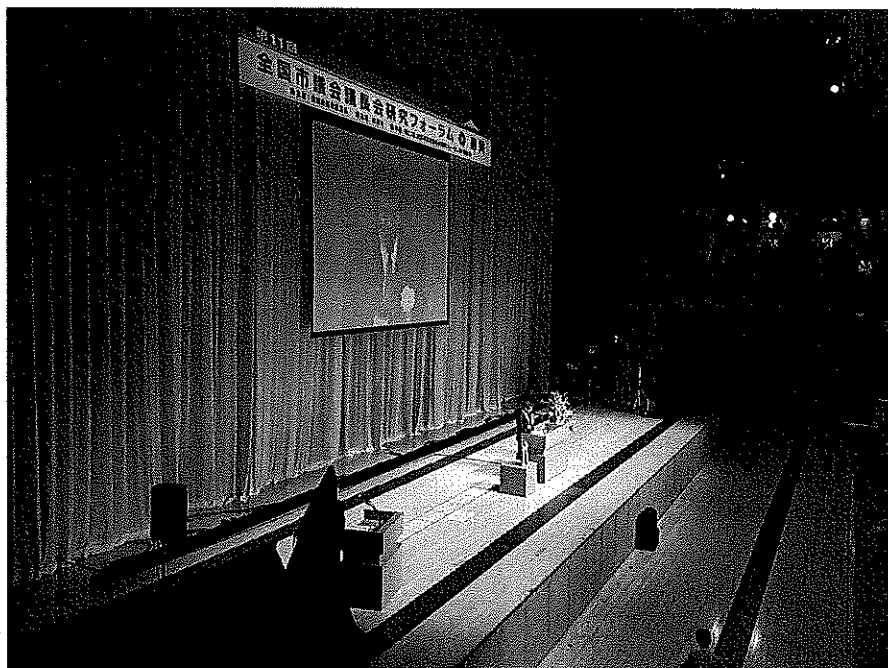
回答③：外部委託をしている。ただ、公園一つにしても、本当に有効な活用スペース・面積を今後、調査しより精度の高いスペースの掌握に努めていこうとしている。

感想：笠岡でもより精度の高い検証を推進すべき。その計画についてチェックを入れていく。

概要	3) 熊本震災について 添付資料内容の通り、名古屋市の熊本県災害対応の報告をレクチャー頂きました。今後、笠岡市も様々な自治体へ災害応援に赴く際に、無駄のない支援を実施できるようその計画を示してもらおうと努めます。
参考資料	別紙



住 所	〒422-8005 静岡県静岡市駿河区池田 79-4
電 話	054-203-5710
案 件	平成 28 年度 第 11 回 全国市議会議長会研究フォーラム
期 日	平成 28 年 10 月 19 日 (水) 13 時 00 分 から 17 時 00 分 20 日 (木) 9 時 00 分 から 11 時 00 分
応 対 者	全国市議会議長会
状 況	別紙写真のとおり
訪問施設	静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」
概要	<p>1. 基調講演 東京大学名誉教授 大森 彌 氏 「二元代表制と議会の監視機能」</p> <p>講演概要：</p> <p>① 首長と議会の関係について議会多数派が首長を中心にあたかも与党を形成するようななれ合い体制では本来の執行機関と議会の役目を果たせない。あくまでも議会は野党の立場、市民の代表の立場で首長との関係を保ち、監視機能を果たすべきである。首長が多数派工作に走るのはもってのほかだ。</p> <p>② チーム議会の形成に尽力してほしい。会派の枠を超えた議論、合意形成、政策提言がより活発化していけば、市民に役立つ議会の力が発揮できるはず。</p> <p>③ 政務活動費などでチェックされるような議会になり下がるな。議会は、あくまでも行政をチェックする側であり、チェックされるような立場であってはならない。政務活動費の有効な活用もそこにあるべきだ。</p>



<p>概要</p>	<p>2. パネルディスカッション 「監視権の活用による議会改革」 コーディネーター 江藤 俊昭 氏 山梨学院大学大学院研究科長・教授 パネリスト 斎藤 誠 氏 東京大学大学院法学政治学研究科教授 土山 希美枝 氏 龍谷大学政策学部政策学科教授 谷 隆徳 氏 日本経済新聞編集委員兼論説委員 栗田 裕之 氏 静岡市議会議長</p> <p>感想：決処分の対応と監視機能を高める議会の必要性。 さらには通年議会の検討も必要と感じました。監視権を使いこなせる議会も目指せるか市民にとって有益な議会となりうる取り組みと考えるようになりました。</p>
<p>概要</p>	<p>3.課題討議 「監視権を如何に行使すべきか」 コーディネーター 佐々木 信夫 氏 中央大学経済学部教授 事例報告者 佐賀 和樹 議員 藤沢市議会前副議長 井上 直樹 議員 和歌山市議会議会運営委員長 嶋崎 健二 議員 日田市議会議長</p> <p>感想： 藤沢市議の100条委員会設置による監視権行使の経緯が特に参考になった。執行部への監視機能を高めるにはチーム議会の構築が必須であり、今後の取り組み課題としたい。</p>
<p>状況</p>	